

ANDERSEN GROUP

アンデルセングループ NEWS LETTER Vol. 6

アンデルセングループについて

1948年に広島で創業。小売直営店を運営する株式会社アンデルセン、「リトルマーメイド」をはじめとするベーカリーブランドのフランチャイズ展開を行う株式会社マーメイドベーカリーパートナーズ、石窯パンなどを小売店にお届けする株式会社タカキベーカリーを中心に、国内外15社で構成。ベーカリーとして最高のクオリティを追求し、パンのある素敵な暮らしをお届けしています。

お手本は、いつもデンマーク

私たちアンデルセングループは、「お手本は、いつもデンマーク」というスローガンのもと、企業活動を行っています。1959年、デニッシュペストリーとの出会いをきっかけに、デンマークとの交流を続けて60年。デンマークで大切にされている概念、「ヒュッグ」を30年以上に亘ってお客様に向けて発信し続けてきたことを始め、この国との出会いが、アンデルセングループの企業活動の方向性を定め、独自性を培ってくれました。今回、「お手本は、いつもデンマーク」という言葉に込めた想いと、アンデルセングループとデンマークの交流について、改めてニュースレターでお届けします。

アンデルセングループとデンマークとの出会い

1. 「デンマルク国の話」

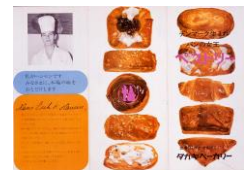
アンデルセングループの創業者、高木俊介が戦地より復員したのは1946年。被爆し荒廃した広島で、勇気を与えてくれた本が内村鑑三の著した「デンマルク国の話」でした。そこには、戦争に敗れ、肥沃な土地を割譲されたデンマークが、一人の工兵大尉ダグガスによって復興していく様が記されていました。「戦いに敗れても、国は亡ばない。」というこの話は、当時の日本の状態と二重写しになり、事業も長い時間をかけて育てるべきだと考え、それがデンマークへのあこがれの発端となりました。

2. デニッシュペストリーとの出会い

1948年に「タカキのパン」を創業。1959年に初めて欧米視察に訪れた際、コペンハーゲンのホテルの朝食で食べたデニッシュペストリーのおいしさに感動。何とかこの本場の味を日本の多くの方にも味わっていただきたいと、デンマークから技術者を招聘したり、日本の技術者をデンマークに派遣するなど研鑽を重ね、1962年に日本で初めて商品化に成功しました。発売後もそのクオリティを高める努力を重ね、1970年代に東京進出の際には、デニッシュペストリーにより他社と差別化することができ、アンデルセングループの独自性につながっていきました。



創業者の欧米視察



発売当時のチラシ

デニッシュペストリーの開発を通じ、デンマークとの交流は広がり、深まっていきました。デンマークの生活や文化にじかに触れる中で、「デンマークには商品の質の高さ以上に、わが社の目指す企業の生き方の手本になるものがたくさんある」と高木は感じ、それはやがて「お手本は、いつもデンマーク」というスローガンにつながっていきました。デンマークの人々は、自主性を重んじ、暮らしを楽しむこと、そのための心地よい空間作りを大切にしています。そうしたデンマークに学んだ暮らしの楽しみ方を、日本のお客様に向けて発信してきた私たちが、使い続けてきた言葉があります。それは、「ヒュッグ」。デンマークの人々の暮らしを語る上で欠かせない言葉です。この「ヒュッグ」について、次にご紹介します。

暮らしを楽しむヒントは「ヒュッグ」

人と人のふれあいから生まれる、温かな居心地のよい雰囲気、それがヒュッグ。他の言語では置き換えられないデンマーク特有の言葉です。デンマークの人たちにとってそれは特別なことではなく、家族や友人と、日常の中で過ごす何気ないひとときを感じるものだと言います。ヒュッグを大切にすることは、楽しく心地よく暮らしたいという生活の在り方そのものにも関わってきます。一人ひとりが自分のライフスタイルを大切にしているからこそ、他人を思いやることができ、ヒュッグな気持ちになれるのだとデンマークの人たちは言います。アンデルセングループでは、商品やサービスを通じて、「ヒュッグな暮らし」をお客様に提案しています。その考えを、どこよりもお客様にわかりやすく伝えるための店舗が、グループの旗艦店である広島アンデルセンです。次に、広島アンデルセンについてご紹介します。



30年以上、ヒュッグを発信してきた「広島アンデルセン」

1967年、広島・本通りにオープン。アンデルセングループで「ヒュッグ」を初めてお客様に向けて発信したのは、1988年の広島アンデルセンリニューアルの時です。一つひとつの商品、サービス、会話にやすらぎを感じていただけるお店をつくろうと、ショップコンセプトを「ヒュッグの街。」という言葉で表現しました。以来、30年以上に亘り「ヒュッグ」を発信し続けています。

広島アンデルセンは、「お手本は、いつもデンマーク」を具現化したお店として、ライフスタイルの提案を行っています。焼きたてのパンはもちろん、コーヒーやデリカテッセン、ワインやお花まで、パンを楽しむためのさまざまな商品を取り揃えています。また、商品だけでなく、パンの楽しみ方を伝えるレストラン、パンづくりやフラワーアレンジメントを学べるカルチャースクール、食事会やパーティを開催できる会場まで、パンのある暮らしの楽しさと、ヒュッグが詰まった空間です。



オープン当初の広島アンデルセン



現在の広島アンデルセン内観

デンマークフェア

1968年、広島アンデルセンのオープン1周年を記念して開催したデンマークフェア。1984年に再開後、今に至るまで毎年開催しています。お客様にデンマークのライフスタイルを感じていただく機会として、デンマークの暮らし、歴史、文化を集中してご紹介しています。また、デンマークの最新の情報も交えながら、ヒュッグな暮らしを送るためのヒントをお客様にお伝えしています。



第1回開催のチラシ

デンマークへの恩返し

1. 桜の植樹

創業者、高木俊介が逝去した翌2002年、デンマークへの感謝の気持ちと永きにわたる友好のしるしとして、ガウノー城に桜の木150本を寄贈。記念碑には、高木俊介の名が刻まれました。また、店名の由来となった童話作家アンデルセンの生誕200年にあたる2005年には、コペンハーゲン市内のラングリニエ公園に、社内の有志を募り200本の桜の木を寄贈。桜の木も大きくなり、毎年多くの花が咲く季節には、桜フェスティバルが開催され、デンマーク文化と日本文化の交流の場となっています。



ラングリニエ公園の桜



桜フェスティバルの様子

さらに、2017年12月に逝去した社主、高木誠一を偲び、2019年4月にガウノー城に新たに桜の木を寄贈、記念碑に高木誠一の名前を刻み、改めてデンマークとの交流に感謝の意を表しました。

2. デンマーク出店

創業60周年を迎えた2008年、コペンハーゲンにアンデルセンを初出店しました。1959年の初めての出会いから、多くのことを学ばせてくれたデンマークへ感謝の気持ちを込めた恩返しであり、デンマークから学び日本で大切に育ててきたデニッシュペストリーの里帰りでもありました。



現在、コペンハーゲン市内の住宅街に「アンデルセン イスランズブリュッグ店」を運営。地域に根付き、地元の人々の生活に役立つベーカリーであるためのチャレンジを続けています。



アンデルセン イスランズブリュッグ店

アンデルセングループの創業者、高木俊介がデンマークでデニッシュペストリーと出会って今年で60年。以来、私たちは「お手本は、いつもデンマーク」を企業の歩む道と定め、その出会いから学んだ物の見方や考え方をアンデルセングループの志としてきました。多くのことをもたらしてくれた国、デンマークとのつながりに感謝し、今年もデンマークフェアの中で集中してそのことをお客様にお伝えし、より多くの「ヒュッグ」を感じていただくことで、食卓に幸せを運びます。

ニュースレターに関するお問い合わせは、株式会社アンデルセン・パン生活文化研究所 広報室まで

【広島】〒730-0045 広島市中区鶴見町2-19 ルーテル平和と大通りビル TEL: 082-240-9409 / FAX: 082-240-9072

【東京】〒140-0002 東京都品川区東品川2-6-4 G1ビル TEL: 03-6711-5030 / FAX: 03-6711-5069